

VII 繁華街の現状と動向

1 概況

繁華街とは、おおむね 60 事業所以上の小売店が連続して街区を形成している小売機能中心の商業集積地区をいい、本市内には 13 箇所存在する。

この 13 繁華街には、市内の小売業のうち事業所数 1,475 店(市内全体の 36.2%、前年比 16.8%減)、従業者数 14,680 人(同 40.1%、9.0%減)、年間商品販売額 2,281 億 7,838 万円(同 37.2%、12.3%減)、売場面積 285,234 m²(同 43.8%、7.4%減)が集積している。

表 VII-1 繁華街の事業所数、従業者数、年間商品販売額及び売場面積

区分	平成14年			平成19年				
	全数	繁華街	占有率 (%)	全数	増減率 (%)	繁華街	増減率 (%)	占有率 (%)
事業所数(店)	4,615	1,772	38.4	4,076	▲ 11.7	1,475	▲ 16.8	36.2
従業者数(人)	38,409	16,135	42.0	36,616	▲ 4.7	14,680	▲ 9.0	40.1
年間商品販売額(万円)	63,393,415	26,021,436	41.0	61,323,096	▲ 3.3	22,817,838	▲ 12.3	37.2
売場面積(m ²)	603,522	308,017	51.0	651,180	7.9	285,234	▲ 7.4	43.8

※ 平成16年は簡易調査のため繁華街のデータはない。

2 繁華街別の状況

繁華街別にみると事業所数では、「橋本駅周辺」が繁華街全体の 16.5%を占め最も多く、次いで「小田急相模原」(繁華街全体の 12.3%)、「相模大野駅周辺」(同 11.5%)となっている。

(ただし前回の調査までの「相模大野駅周辺」は「相模大野駅周辺」と「相模大野ステーションスクエア」に分離している。)

従業者数の構成比では、最も多いのは「古淵」で繁華街全体の 17.2%、以下「橋本駅周辺」(同 16.1%)、「相模大野駅周辺」(同 14.5%)、の順となっている。

年間商品販売額の構成比では、最も多いのが「相模大野駅周辺」で全体の 21.3%を占めている。以下「古淵」(同 17.5%)、「橋本駅周辺」(同 17.4%)の順である。

売場面積の構成比では、「古淵」が最も多く全体の 20.3%を占めている。以下「相模大野駅周辺」(同 20.0%)、「橋本駅周辺」(同 19.9%)の順である。事業所数以外は、大規模小売店舗を抱える「古淵」、「相模大野駅周辺」、「橋本駅周辺」の 3 地区が上位を占めている。

表VII-2 繁華街別事業所数、従業者数、年間商品販売額及び売場面積

繁華街	事業所数 (店)	従業者数 (人)	年間商品 販売額 (万円)	売場面積 (㎡)
合計	1,475	14,680	22,817,838	285,234
古淵	118	2,529	3,991,046	57,763
二本松	32	262	267,418	2,443
相模原中央	62	650	1,191,513	14,559
橋本駅周辺	244	2,368	3,964,203	56,813
相模原駅前	136	1,324	1,622,582	24,229
西門商店街	58	510	374,336	3,825
淵野辺	133	921	1,137,676	9,287
上溝	82	549	584,183	9,375
東林間	104	730	860,912	10,043
小田急相模原	181	1,429	1,903,204	19,589
相模大野駅周辺	169	2,135	4,869,306	57,142
相模大野ステーションスクエア	105	965	1,658,371	16,854
中野商店街	51	308	393,088	3,312

